

青森県西津軽郡深浦町大字深浦  
浜町方言の比喩語について

渡邊 修平

はじめに

1. 調査対象地：深浦町は、青森県西部地方の海岸部に位置し、浜町は深浦町のほぼ中央にあつて深浦湾に面している。丘陵部の他の集落では農業も行なっているが、この地域は漁業を主としている。弘前市、五所川原市へはJR線・バスの便がある。浜町は399戸、人口1228名で、人口はやや減少傾向にある。
  2. 調査年月日時：1992年12月18日午前11時30分～午後4時
  3. 話者：佐藤みき 昭和3年9月23日生（64歳）  
他に60歳代の女性3名に同席してもらった。
  4. 調査者・調査場所：渡邊修平、同席者宅の居間
  5. 調査方法・調査時の様子：調査票にしたがつて、質問法を採った。同席者3名にも自由に発言してもらい、友人同士のうちとけた談話になるように心がけた。
- 以下の記述で、（ ）内の語例は比喩語が得られない項目である。

I 《自然現象》

- (1) 日照り雨) ヒンデリアメ (日照り雨) <名> 老年層 古 中  
ヒヨリアメ (日和り雨) <名> 中年層 盛 新 中
- 2 入道雲 ニイドグモ (入道雲 <名> 老・中年層 稀 新 上) 古くは、ただ「クモ」というだけで特別な呼称はなかった。
- 3 旋風 タツマギ (竜巻) <名> 老年層 稀 古 中 大規模のものをいうが、例のような小さいものにも用いる。
- (4) 霜柱) スガ・スガ タツテラ (氷を一般に「スガ」というので、それが「立っている」という。) <名> 老・中年層 盛 古 中
- (5) つらら) スガ・スガ サガツテラ (氷・氷が「下がっている」という。) <名> 老・中年層 盛 古 中
- 6 北斗七星 シヤグノカダシタホシ (ひしゃくの形をした星) <文形態> 老年層 稀 中 特に「～ホシ」という呼称はなく、形をいうことで表す。
- (7) 昴) ホシ (星) (特別な呼称はなく、ただ「ホシ」と総称する。) <名> 老年層 稀 古 中
- (8) 流れ星) ホシ トンデラ (星が飛んでいる) <文形態> 老年層 稀 古 中

- 9 雷 ナガレボシ(流れ星)〈名〉中・若年層 盛 新 中  
 ゴロゴロサマ(ごろごろ様)〈名〉老年層 盛 古 上 雷鳴の擬声語からの呼称。

## II 〈動物〉

- 10 かわはぎ バグチ(博打・馬口)〈名〉老年層 盛 古 下  
 ①博打、この魚は皮を剥いて料理するので、賭事で負けると身ぐるみはがれることに例える。  
 ②馬口、この魚の頭部が馬のようであり、口が似ているところに例える。
- 11 ひらめ シラメ(平目)〈名〉老・中年層 盛 古 中  
 共通語と同じ呼称であり、音声的な相違のみである。
- 12 ほっけ ローソクボツケ(蠟燭ほっけ)〈名〉老・中年層 盛 古 中  
 ほっけの中でも、脂身の少ない、細いほっけをいう。
- 13 ひきがえる モツケ(ひきがえる)〈名〉老・中年層 盛 古 下  
 方言形に「モツケ」(お調子者)があり、その例えか、のろのろと歩く様子からの呼称という。
- (14 青大将) アオンダイショー(青大将)〈名〉中年層 稀 新 中) 特別な呼称はなく、古くは「マムシ」以外の無毒の蛇を総称して「ヘビ」といった。
- 15 とかげ カナガラヘビ・カラヘビ(鈎屑蛇)〈名〉老・中年層 盛 古 中  
 「カナガラ」は鈎屑のことで、「カラ」はその略称。尻尾が鈎屑のようにまるくなるところからいう。
- 16 かまきり カマギリ(鎌切り)〈名〉老・中年層 盛 古 中  
 共通語と同じ呼称であり、音声的な相違のみである。前足を鎌に例える。
- (17 みずすまし) (?アメンボ・ゲンゴロー)〈名〉中年層 稀  
 この虫について特別には注意をはらわないようで、呼称の特定ができなかった。単に「ムシ」という。
- (18 きつつき) キツツキ〈名〉老・中年層 稀 新 中 共通語と同じ呼称である。
- (19 せきれい) セギレー〈名〉中年層 稀 新 上 共通語と同じ呼称であり、音声的な相違のみである。
- 20 ふくろう モホドリ(なまけもの・間抜けな鳥)〈名〉老年層 盛 古 中  
 ① なまけている、間抜けな様子を「モホットシテル」というところから、昼間動かないでいる鳥という意。  
 ② この鳥の鳴声を呼称としたという。

Ⅲ <植物>

- 21 馬鈴薯 ニンドイモ (?二度・二斗芋) <名> 老年層 盛 古 中  
 ① 収穫するまでに、二度土を掛けるところからいう。  
 ② 二斗も多量に収穫できるところからいう。
- (22 とうもろこし) キミ (黍) <名> 老・中年層 盛 古 下  
 これは津軽地域一般に共通する方言形である。「トーモロコシ」は、あらたまった上品な言い方になる。
- (23 いんげん豆) ササギ <名> 老・中年層 盛 古 中 これは津軽地域一般に共通する方言形である。
- 24 そら豆 ケツマメ (尻豆) <名> 老年層 盛 古 下 豆の形が尻の形に似ているところからいう。
- 25 木くらげ キノミミ (木の耳) <名> 老年層 盛 古 中 木についている形状から、「耳」に例えていう。
- 26 げんのしょうこ クヂハメ (口はめ) <名> 老年層 盛 古 下 尊を唇につけて遊んだところからの呼称。
- (27 どくだみ) ドグダミ <名> 老年層 盛 古 下 共通語と同じ呼称である。
- 28 いたどり サシトリ (差し取り) <名> 老年層 盛 古 中 節の間隔がほぼ同じであるところから、物差しになぞらえていう。
- 29 からすうり カラシウリ (辛子瓜) <名> 老年層 盛 古 中 黄からすうりで、色が辛子色をしているところからいう。
- (30 すみれ) スミレ <名> 老年層 盛 新 上 共通語と同じ呼称である。
- 31 春蘭 ジーババ (爺婆) <名> 老年層 盛 古 中  
 命名の由来は不明であるが、古くは婚姻などの時にこの花びらを塩漬けにして贈る風習があったという。
- (32 母子草) (?カンギク) 該当する語形は得られなかった。
- (33 ねむの木) ネムノキ <名> 老年層 盛 新 中 共通語と同じ呼称である。

Ⅳ <性向>

- (34 熱しやすく冷めやすい人) イットマニ アギラガス ヒト (すぐに飽きてしまう人)  
 <文形態> 老年層 古 中
- (35 あわてん坊) チャカシ <名> 老年層 盛 古 中 これは津軽地域一般に共通する方言形である。
- (36 動作の鈍い人) トロケ (のろま) <名> 老年層 新 下
- 37 嘘つき セントー (千に十) <名> 老年層 稀 古 下 千のうち、十しか本当でないような人の例え。
- 38 ほらふき タイホー (大砲) <名> 老年層 盛 古 中 何でも大事のように

話す人のことを例える。

- (39 おしゃべり) オチャベ (おしゃべり) <名> 老・中年層 盛 新 中
- 40 冗談言い ザモチ (座持ち) <名> 老年層 盛 古 中 この人がいると、その場の雰囲気盛り上がるどころからいう。
- 41 口先だけの人 ベンフリ (弁振り) <名> 老・中年層 盛 新 中 口ばかりうまい人のことをいう。
- 42 とんちんかんなことを言う人 ケツベレネー (尻をふさげない) <文形態> 老年層 稀 古 下 話の辻褄が合わなくなつてうまくまとめられない人のことをいう。
- 43 のらりくらし煮えきらない人 ニフネヒトダ (煮えたか煮えないかわからない人) <文形態> 老年層 稀 古 中 どう考えているのか、はっきりしない人のことをいう。
- 44 怒りっぽい人 タンバラ (短腹) <名> 老・中年層 古 中 気が短いことを一般にあらわす。
- 45 気むらな人 テンキヤ (天気屋) <名> 老・中年層 稀 新 中 天気の変わりやすいように、気が変わりやすい人をいう。
- 46 泣き虫 ゴンボホリ (牛蒡掘り) <名> 老・中年層 盛 古 中 牛蒡を掘り取るように、大変手間がかかることからいう。
- 47 おてんば娘 ジャッパ (本来は魚のあらの意) <名> 老・中年層 盛 古 中 これはあらの意ではなく、おおざっぱな調理法からいうものか。
- 48 腕白坊主 ズルスケ (言うことを聞かない子) <名> 老・中年層 盛 古 中 「ずるい」という意ではなく、腕白で、いたずらな子供の意。
- (49 出しゃばり) ケンジャガシ (小賢しい) <形> 老年層 古 中 「イケンジャガシ」ともいい、主に子供に対する呼称。
- 50 どこへでも顔を出す人 サンゴー 呼称の由来は不明であるが、地域によっては作業・行事等の触れ役のことをいう。 <名> 老年層 古 中
- (51 家にこもって外出しない人) デブショー <名> 老・中年層 稀 新 中 共通語と同じ呼称。
- (52 小心者) ジグナシ (いくじなし) <名> 老・中年層 盛 古 中 「ジグ」は度胸、勇氣の意。
- 53 内弁慶 エノナガノオニッコ (家の中の鬼) <名> 老年層 古 中 家の中では鬼のように威張っている人の例え。
- (54 人づきあいをしない人) ヨグタガリ (欲たかり) <名> 老年層 稀 古 下 人

づきあいしない理由の一つとして、「けち」であることを  
いったもの。

- (55) 妻に対して頭のあがらない男) フヌゲ(腑抜け) <名> 老年層 盛 古 下  
56 けち ドシンポー・シンボタガリ(ど辛抱・辛抱たかり) <名> 老年層 稀  
古 下 「ドシンポー」のほうが強い意。  
57 欲張り ホイドタガリ(乞食たかり) <名> 老年層 稀 古 下 何でも欲し  
がるような人を例えていう。

#### V 《食生活》

- 58 大食漢 オーマグレ(大馬食らい) <名> 老・中年層 盛 古 中 馬ほども  
よく食べる人の意。  
59 ぼたもち テメコロバシ(手前転ばし) <名> 老年層 稀 古 中 鍋の中で餡  
をつけるときに、餅を手前に転がしながらつける動作から  
いう。  
60 砂糖味が薄い サドヤノメエカゲアシダ(砂糖屋の前駆け足だ) <文形態> 老年層  
盛 古 中 砂糖屋の前を通りすぎてしまうという意で、  
味の薄さを表す。  
(61) 塩味が薄い) アメエ(甘い) <名> 老・中年層 盛 古 中 これは津軽地域  
一般に共通する方言形である。  
62 大酒飲み イッシヨノミ(一升飲み) <名> 老年層 盛 古 中 一升も飲む人  
の意。  
ジャル(筈) <名> 中年層 盛 新 中 筈のように、酒がいくらで  
も入る人の意。  
63 酒に酔ってくだをまく サゲノミノゴンボホリ(酒飲みの牛蒡掘り) <名> 老年層  
古 中 酔ってしまつて、牛蒡掘りのように手間がかかる  
人の意。  
64 酒に酔って顔が赤くなる、その様 キントキ(金時) <名> 老年層 盛 古 中  
金時のように顔が赤い意。  
コーヨー(紅葉) <名> 老年層 稀 古 上 紅葉のよう  
に赤くなる意。

#### VI 《動作・様態》

- 65 恥ずかしくて顔が赤くなる、その様 ユゲポーダ(湯気ぼーだ) <文形態> 老年層  
稀 古 上 上気して顔が赤い意。  
66 どしゃ降りの雨 ランキアメ(乱気雨) <名> 老年層 古 中 気が違ったような  
激しい勢いの雨を表す。  
67 あばれもの ランキタガリ(乱気たかり) <名> 老・中年層 稀 古 下 暴れて

手が付けられないような人の意。

- (68) ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、その様) シタドゴネ (干たところがない) 老年層
- (69) 服装がだらしない様) フンジャマワリ (身形が変だ) <形> 老・中年層 稀 古 下
- 70 髭がのび放題な様 ホイドエンタカッコ (乞食のような格好) <名> 老年層 稀
- 71 厚化粧をしている人 カンベニンギョ (壁人形) <名> 老・中年層 盛 古 中  
白壁のような化粧顔の人形の例え。
- 72 背丈の高い人 ロクシャグボンス (六尺坊主) <名> 老年層 盛 古 中 六尺も  
背丈があるような人の意。
- 73 出びたい トンドコナズキ (蚕額) <名> 老年層 盛 古 中 蚕 (トンドコ) の  
頭部のように、出っ張っている額 (ナズキ)。
- 74 汗がひたいから流れ落ちる タギエンタアヘカグ (滝のような汗をかく) <文形態>  
老年層 古 中
- 75 目を丸くする マナグ ヌゲタゲ ドッテンシタ (目が抜けるほどびっくりした)  
<文形態> 老年層 古 中
- 76 病気などで目が落ち窪む エンドマナグ ナッタ (井戸のような目になった) <文  
形態> 老年層 古 中 落ち窪んだ目 (マナグ) を、井戸  
に例える。
- (77) 口をとがらす) センマイドーシ エンタ クチ (千枚通しのような口) <文形態>  
老年層 稀 古 中
- 78 可愛い口付き ドンジョノクチ (泥鰌のような口) ・オチヨコノクチ (お猪口のよ  
うな口) <名> 老年層 古 中
- 79 焦げ臭いにおい シナグセー (きな臭い) 布、建物など。コゲクセー (焦げ臭い)  
ご飯など。 <形> 老・中年層 盛 古 中
- (80) 遠回り) オーマワリ (大回り) <名> 老・中年層 古 中
- (81) 末っ子) バツコ (末子) <名> 老・中年層 盛 古 中
- (82) 一生懸命頑張る) ケッパル (気張る) <動> 老・中年層 盛 古 中

まとめ： 全体的に見て比喩語単独での表現は少なく、地域の方言語形か、あるいは<性  
向>・<動作・様態>におけるような<文形態>や「～タガリ」で「～のような人」の意  
を表している。比喩詞としては、日常的に関わりの多い身近な事物、動作が採られており、  
象徴的あるいは言語遊戯的な意味合いを持つものは少ないものの、「AエンタB」(Aの  
ようなB)という比喩形態によって、より自由度の高い表現や発想が許容されていると思  
われる。

(わたなべしゅうへい 弘前学院大学文学部)